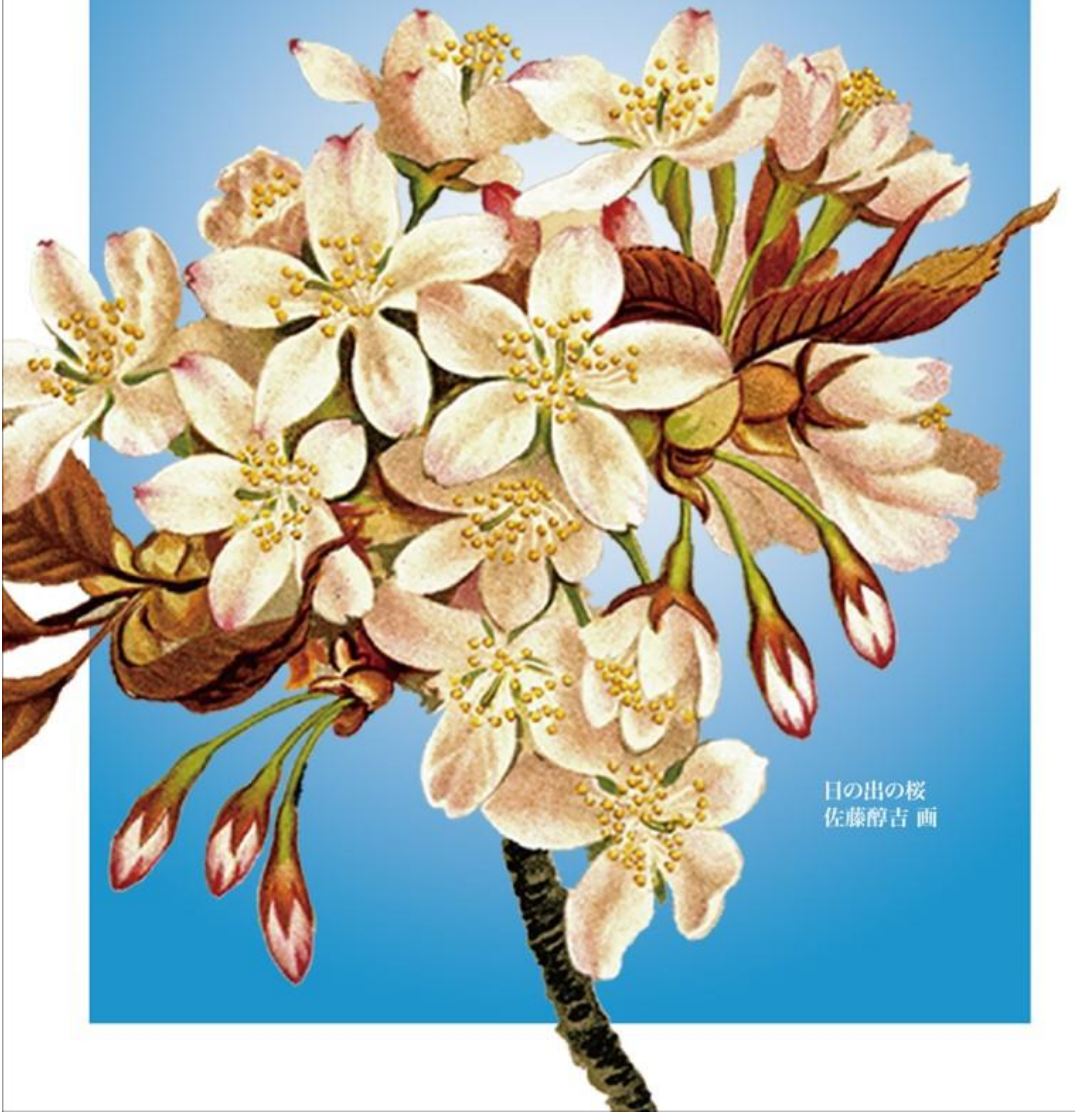
小金井市文化財
ブックレット3

小金井桜拾遺



日の出の桜
佐藤醇吉 画

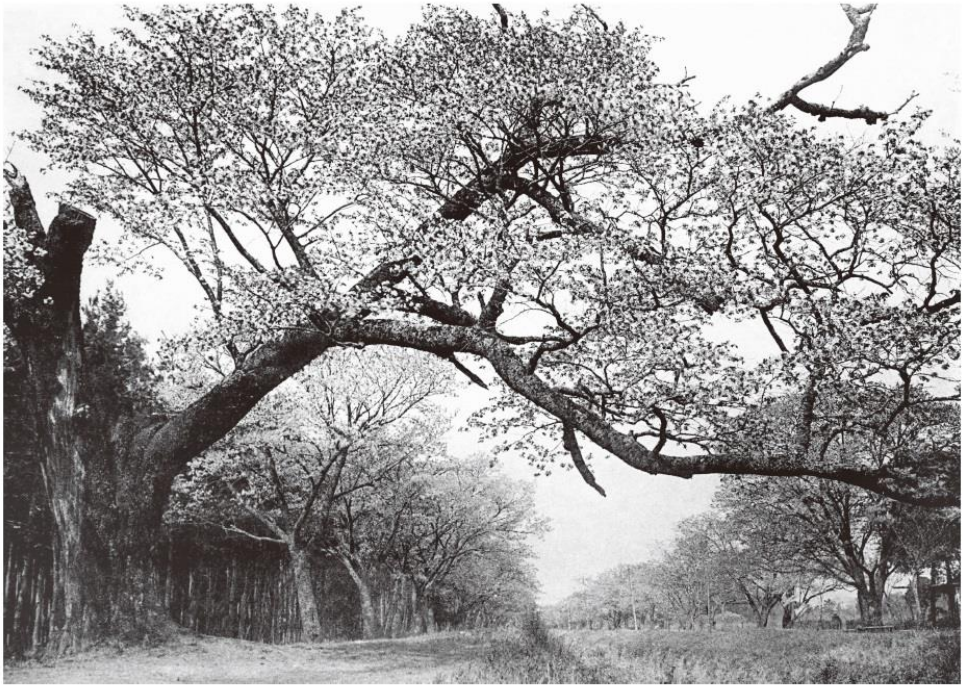
富士見桜　下南 120

富士見桜は小金井橋の下流南岸、小金井橋から数えて 120 番目にあった桜樹。場所は新小金井橋と関野橋の間、現在の上水桜通り沿いの平右衛門橋付近にありました。この富士見桜は日の出の桜（次章参照）と並ぶ小金井桜を代表する二大名桜。玉川上水に枝が覆いかぶさるような巨木で、花見時には「駒がくれ　富士見桜」と大書した幟が掲げられました。大正 5 年に刊行された『東京帝国大学理科大学紀要』に掲載された写真に、その威容が垣間見られます。しかし大正 10 年に刊行された『桜花概説』を見ると、その時点で主幹は暴風により折れて枯死していました。

富士見桜　Prunus mutabilis Miyos. f. venusta Miyos.

小金井の白山桜の一にして、大木となれるが、主幹は折れ、其根元より出たる支幹現に生存す。赤芽、大輪、淡紅色の美しき桜にして、花の数は少きも花の大なるによりて著し。

三好學『桜花概説』大正 10 年（1921）

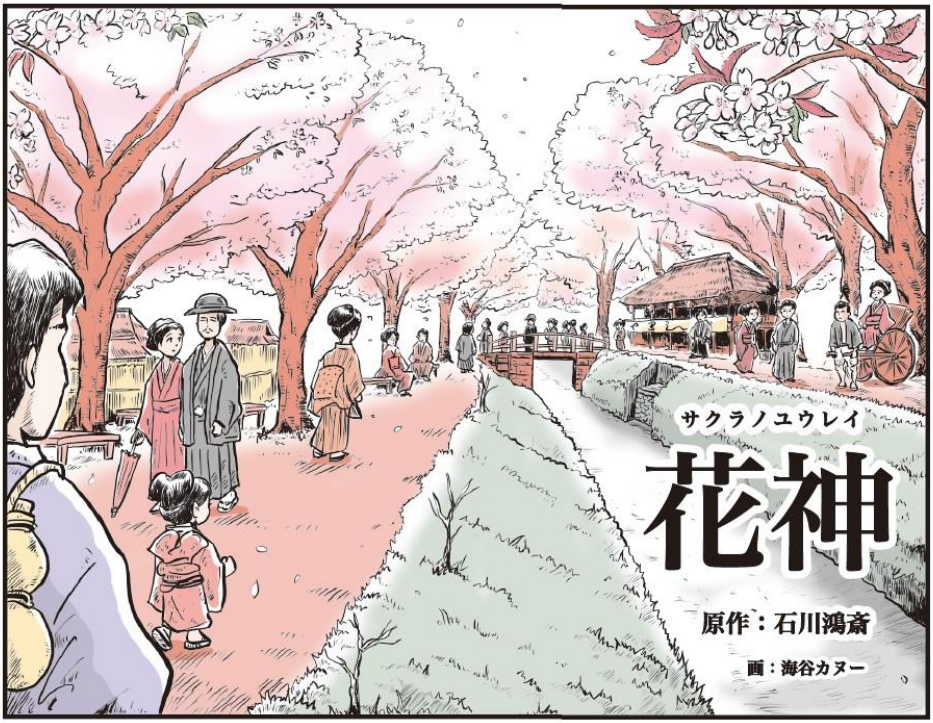


富士見桜

三好學『東京帝国大学理科大学紀要』大正 5 年（1916）

都の書生、平春香（たいらのはるか）は
瀟洒な人柄で
才学にも優れていた。
二十歳の時に東都に遊学し
軽い病が癒えた頃
時は晩春となっていた。

その日
「小金井で桜を観よう」
と早起きした春香は
軽装にて弁当を持ち
酒瓢箪を提げて家を出た。


サクラノユウレイ
花神
原作：石川鴻斎
画：海谷カヌー